



## 2024年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年11月14日

上場会社名 デジタル・インフォメーション・テクノロジー株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 3916 URL http://www.ditgroup.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 市川 聡  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 経営企画本部長 (氏名) 小松 裕之 TEL 03 (6311) 6532  
 四半期報告書提出予定日 2023年11月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年6月期第1四半期の連結業績（2023年7月1日～2023年9月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年6月期第1四半期	4,709	4.5	546	△16.3	537	△18.0	365	△21.7
2023年6月期第1四半期	4,504	21.2	652	54.6	656	55.4	467	58.7

(注) 包括利益 2024年6月期第1四半期 379百万円 (△19.5%) 2023年6月期第1四半期 471百万円 (59.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年6月期第1四半期	24.45	—
2023年6月期第1四半期	30.64	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年6月期第1四半期	8,302	5,948	71.7
2023年6月期	8,176	6,006	73.5

(参考) 自己資本 2024年6月期第1四半期 5,948百万円 2023年6月期 6,006百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年6月期	—	18.00	—	18.00	36.00
2024年6月期	—	—	—	—	—
2024年6月期(予想)	—	23.00	—	23.00	46.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2024年6月期の連結業績予想（2023年7月1日～2024年6月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期累計	9,500	4.8	1,100	△12.0	1,100	△13.3	763	△14.5	51.04
通期	19,500	7.4	2,500	22.6	2,500	21.4	1,734	19.8	116.00

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 ー社（社名）ー、除外 ー社（社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年6月期1Q	15,501,820株	2023年6月期	15,501,820株
② 期末自己株式数	2024年6月期1Q	553,551株	2023年6月期	471,051株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年6月期1Q	14,961,749株	2023年6月期1Q	15,248,269株

(注) 期末自己株式数及び期中平均株式数の算定上控除する自己株式数には、従業員インセンティブ・プラン「株式給付信託（J-ESOP）」制度に係る信託財産として株式会社日本カストディ銀行が所有している当社株式を含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(1) 経営成績に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	8
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	8
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(セグメント情報等) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（2023年7月1日～2023年9月30日）における経営環境は、景気は緩やかに回復するものと見込まれているものの、円安、資源高等に起因する原材料価格およびエネルギー価格の上昇による物価高もあり、個人消費動向や企業収益における不確実性も高く、引き続き先行きが不透明な状況となりました。

当社が属する情報サービス産業においては、堅調なソフトウェア投資が続いており、2023年10月2日に公表された日銀短観（9月調査）による2023年度ソフトウェア投資計画（全産業・全規模合計）は、2022年度と比較し、15.3%増と引き続き拡大傾向を示しました。

当社グループにとっても、DXの実現を加速するAI（Artificial Intelligence：人工知能）、IoT（Internet of Things：モノのインターネット）、既存システムのクラウドシステムへの移行、システム開発のスピードアップを実現するローコード開発等の進展により、ビジネス参入機会の増加と事業領域の拡大に繋がりました。

また、「サイバーセキュリティの対策強化」及び「業務効率化」のニーズは引き続き高まっており、これらに対して有効なソリューションを有する当社グループの追い風となりました。

このような環境の下、当社グループでは、「5つの事業戦略」を掲げ、積極的な取り組みを継続しております。

- ・リノベーション（既存事業の改革による事業基盤の拡大・安定化）
- ・イノベーション（自社商品を軸とした新しい価値創造）
- ・競合から協業へ（協業による事業拡大）
- ・開発からサービスへ（サービス視点での事業拡大）
- ・人材調達・人材育成（採って育てる）

また、当社は2021年8月20日に中期経営計画及びDITグループの2030年ビジョンを発表しました。2030年ビジョンでは、「信頼され、選ばれるDITブランド」の構築に向けてDITの将来像（DIT Services：ワンランク上の価値提供、DIT Spirits：プロフェッショナル集団）を掲げると共にチャレンジ500(\*)と銘打ち、下記経営目標を設定いたしました。



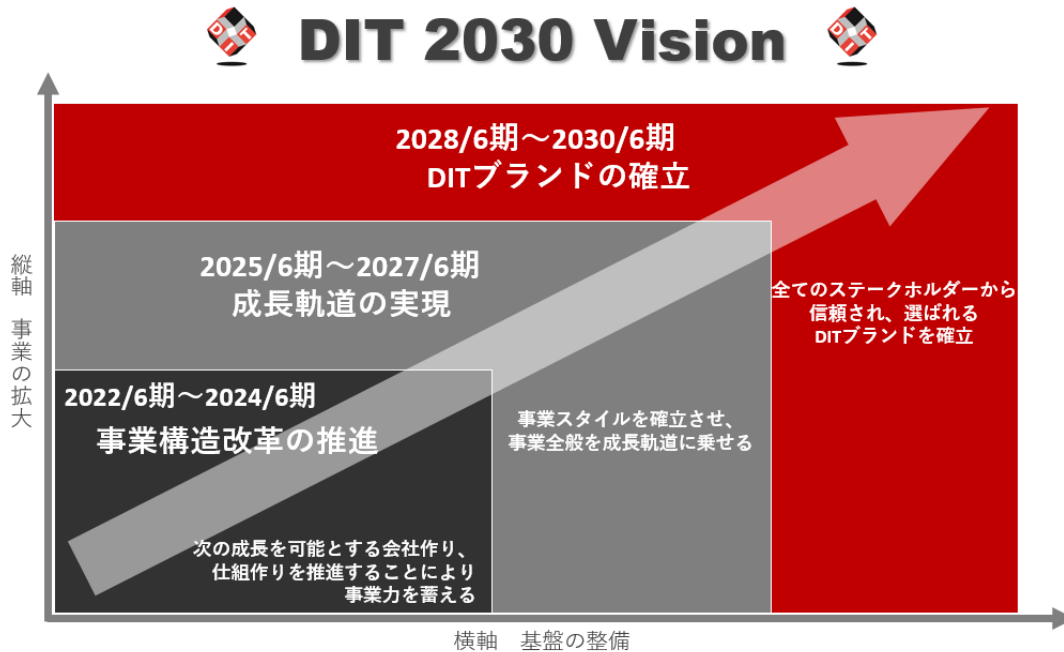
### 経営目標

	2030年6月期までの中期経営目標	
	オーガニックグロース	+新規事業・M&A等
売上高	300億円以上	500億円
営業利益	40億円以上	50億円

(\*)チャレンジ500

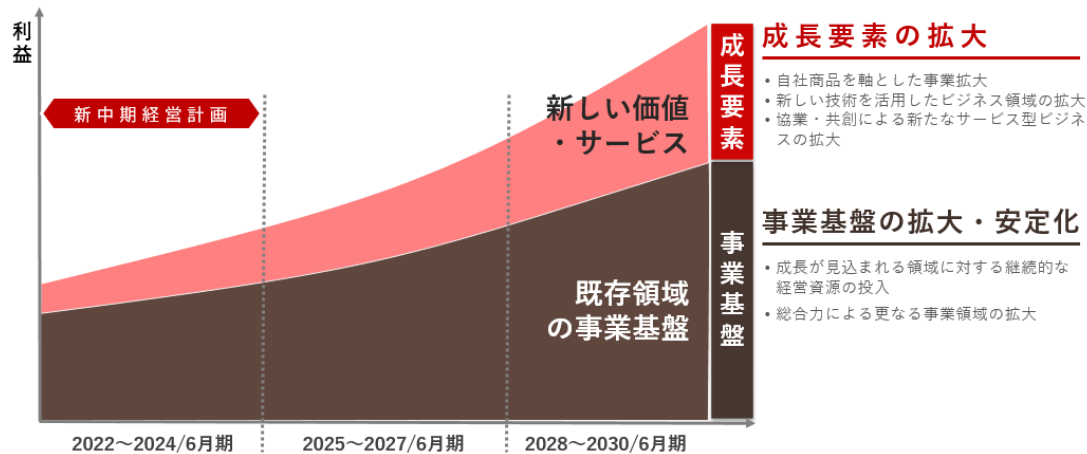
2030年6月期に向け売上高500億円に挑戦！

この2030年ビジョンの実現ステップとして、2022年6月期から2024年6月期を、次の成長を可能とする会社作り、仕組作りを推進することにより事業力を蓄える「事業構造改革の推進」の期間、2025年6月期から2027年6月期までの期間を、事業スタイルを確立させ、事業全般を成長軌道に乗せる「成長軌道の実現」の期間、また、2028年6月期から2030年6月期の期間を、全てのステークホルダーから信頼され、選ばれる「DITブランドの確立」の期間としています。



## 中長期成長モデル

- |   |      |                              |
|---|------|------------------------------|
| 1 | 事業基盤 | ・・・幅広い事業領域の安定的な取引を強みに更なる基盤拡大 |
| 2 | 成長要素 | ・・・社会変化に対応した新しい価値・サービスの提供    |



2024年6月期は、今中期経営計画の最終年度にあたり、過年度から継続している「事業基盤の拡大・安定化」と「成長要素の拡大」の2軸をより強化した事業の推進を継続しています。「事業基盤の拡大・安定化」については、ビジネスソリューション事業において、不採算案件の影響(前期第1四半期にあった不採算顕在化前の利益の剥落及び今期実施した移管会社への引継ぎ作業への要員投入)等により、売上の伸びが抑えられると共に大幅な減益となりました。また、エンベデッドソリューション事業において、需要の高い車載関連事業に着実に対応し、想定以上に売上利益共に伸ばすことができました。システム販売事業については、インボイス制度導入を追い風にした駆け込み需要もあり、大幅な増収増益となりました。

「成長要素の拡大」については、電子契約サービス関連の売上増により着実に成長することができました。独自技術による自社商品であるWebセキュリティソリューション「WebARGUS：ウェブアルゴス」(\*1)及びExcel業務イノベーションプラットフォーム「xoBlos：ゾブロス」(\*2)については、サブスクリプションライセンスの売上を着実に積み上げることができました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高は四半期ベースでは過去最高の4,709,564千円（前年同四半期比4.5%増）、営業利益546,059千円（前年同四半期比16.3%減）、経常利益537,935千円（前年同四半期比18.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は365,815千円（前年同四半期比21.7%減）となりました。

(\*1)Webセキュリティソリューション「WebARGUS（ウェブアルゴス）」は、ウェブサイト等の改ざんを発生と同時に検知し、瞬時に元の正常な状態に復元できる、新しい方式のセキュリティソリューションです。改ざんの瞬間検知・瞬間復旧により、悪質な未知のサイバー攻撃の被害から企業のウェブサイト等を守ると同時に、改ざんされたサイトを通じたウイルス感染などの被害拡大を防ぎます。

(\*2)Excel業務イノベーションプラットフォーム「xoblos（ゾブロス）」は、Excelベースの非効率な業務を自動化します。これにより短期間で劇的に業務を効率化することができます。（Excel®は、米国Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。）

セグメント別の業績は以下のとおりであります。

なお、以下の事業別売上高、セグメント利益（営業利益）は、セグメント間の内部取引相殺前の数値であります。

#### ①ソフトウェア開発事業

ビジネスソリューション事業分野（業務システム開発、運用サポート）の需要自体は旺盛でした。

業務システム開発では公共、通信の案件の獲得が順調でしたが、前期発生した医薬系の不採算案件の影響及びERP関連が受注サイクルの谷間にあたり案件獲得が進まなかったことから、売上の伸びが抑えられると共に大幅な減益となりました。なお、不採算案件の引き継ぎ作業は予定通り今第1四半期において収束していることから、第2四半期以降への影響は無い見通しです。

運用サポートでは、事業領域の拡張と前期グループ入りしたシンプルズ社の増収増益により、前期の最高業績を更に上回ることができました。

エンベデッドソリューション事業分野（組込みシステム開発、組込みシステム検証）は、車載関連が好調で、利益面の改善が進み、売上の伸び率以上に利益率を伸ばすことができました。

組込みシステム開発では、車載系、半導体系、家電系IoT関連が伸長し、売上・利益ともに前年を着実に上回りました。

組込みシステム検証においては、車載系の検証業務が伸び、売上・利益ともに前年を着実に上回りました。

自社商品事業分野は、サブスクリプションモデルのライセンス売上の積上げと電子契約サービス関連の売上増により、売上は順調に伸びましたが、体制強化に伴うコスト増により、利益は前年並みとなりました。

サイバーセキュリティビジネスについては、ライセンス売上は着実に増えましたが、大型案件の受注がなく、売上・利益共に前年並みとなりました。また、外部サイバーセキュリティ専門会社（F-Secure社、SSH Communications Security社等）との協業によるWebARGUSを核としたトータルセキュリティサービス（DIT Security）の拡販を進めると共に、情報セキュリティで最大の脅威となっているランサムウェア攻撃等から重要データを確実に保護するセキュリティ製品「WebARGUS（ウェブアルゴス）for Ransomware（ランサムウェア）」について顧客となるターゲットを絞り込み、営業を進めました。

業務効率化ビジネスについては、既存顧客の他部署への横展開を推進すると共に前期から積み上げていたリード顧客の案件の取り込みにも努めましたが、SI開発の減少と体制強化に伴うコスト増もあり、売上・利益共に前年並みとなりました。

コロナ禍のニューノーマルな社会でニーズが拡大した電子契約のアウトソーシング型サービス「DD-CONNECT」（ディ・ディ・コネクト）は、周辺開発を含め大幅に売上が増加し、利益に寄与し始めました。

これらの結果、ソフトウェア開発事業の売上高は4,501,030千円（前年同四半期比3.4%増）、セグメント利益（営業利益）は515,447千円（前年同四半期比17.3%減）となりました。

#### ②システム販売事業

カシオ計算機株式会社製中小企業向け業務・経営支援システム「楽一」を主力とする販売ビジネスについては、2024年1月から義務化される「電子帳簿保存法改正に伴う電子データ取引データ保管」に向け営業を開始すると共に、インボイス制度導入の駆け込み需要により売上高及びセグメント利益は前年より大幅に増加しました。

この結果、システム販売事業の売上高は210,351千円（前年同四半期比29.7%増）、セグメント利益（営業利益）は30,611千円（前年同四半期比30.3%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における資産、負債及び純資産の状況は以下のとおりであります。

①流動資産

当第1四半期連結会計期間末に、前連結会計年度末に比べ13,084千円増加し、7,391,334千円となりました。これは、主に現金及び預金が221,928千円減少し、売掛金及び契約資産が139,454千円、商品が40,123千円並びにその他が46,870千円それぞれ増加したことによるものです。

②固定資産

当第1四半期連結会計期間末に、前連結会計年度末に比べ112,293千円増加し、910,668千円となりました。これは、有形固定資産が34,831千円及び投資その他の資産が84,681千円それぞれ増加し、無形固定資産が7,219千円減少したことによるものです。

③流動負債

当第1四半期連結会計期間末に、前連結会計年度末に比べ146,176千円増加し、2,126,419千円となりました。これは、主に買掛金が113,792千円、賞与引当金が149,680千円及びその他が74,577千円それぞれ増加し、未払法人税等が184,061千円減少したことによるものです。

④固定負債

当第1四半期連結会計期間末に、前連結会計年度末に比べ36,670千円増加し、226,680千円となりました。これは、主に株式給付引当金が6,967千円及びその他が29,406千円それぞれ増加したことによるものです。

⑤純資産

当第1四半期連結会計期間末に、前連結会計年度末に比べ57,469千円減少し、5,948,902千円となりました。これは、主に利益剰余金が66,320千円、自己株式が137,108千円それぞれ増加したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年8月10日に公表いたしました通期連結業績予想から修正は行っておりません。今後の社会情勢を鑑み、必要に応じて業績予想の変更について開示してまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,185,107	3,963,178
売掛金及び契約資産	2,953,526	3,092,981
商品	30,802	70,926
仕掛品	108,173	116,749
その他	100,708	147,579
貸倒引当金	△68	△80
流動資産合計	7,378,249	7,391,334
固定資産		
有形固定資産	138,285	173,116
無形固定資産		
のれん	159,105	149,161
その他	13,508	16,233
無形固定資産合計	172,614	165,394
投資その他の資産		
その他	520,033	604,688
貸倒引当金	△32,558	△32,531
投資その他の資産合計	487,475	572,156
固定資産合計	798,374	910,668
資産合計	8,176,624	8,302,002



(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	615,140	728,932
未払法人税等	407,337	223,276
賞与引当金	—	149,680
受注損失引当金	14,792	6,979
その他	942,971	1,017,549
流動負債合計	1,980,242	2,126,419
固定負債		
退職給付に係る負債	8,914	9,210
株式給付引当金	142,694	149,661
その他	38,401	67,808
固定負債合計	190,009	226,680
負債合計	2,170,252	2,353,099
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	453,156	453,156
資本剰余金	459,214	459,214
利益剰余金	5,742,065	5,808,386
自己株式	△694,538	△831,646
株主資本合計	5,959,896	5,889,109
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	10,563	17,577
為替換算調整勘定	35,911	42,216
その他の包括利益累計額合計	46,475	59,793
純資産合計	6,006,372	5,948,902
負債純資産合計	8,176,624	8,302,002

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)
売上高	4,504,768	4,709,564
売上原価	3,321,853	3,598,668
売上総利益	1,182,915	1,110,895
販売費及び一般管理費	530,751	564,836
営業利益	652,163	546,059
営業外収益		
受取利息	124	97
受取配当金	193	—
受取手数料	369	413
保険解約返戻金	3,948	2
助成金収入	245	41
未払配当金除斥益	494	375
その他	68	125
営業外収益合計	5,445	1,056
営業外費用		
支払利息	142	125
為替差損	1,438	414
事務所移転費用	—	8,503
その他	19	137
営業外費用合計	1,600	9,181
経常利益	656,007	537,935
税金等調整前四半期純利益	656,007	537,935
法人税、住民税及び事業税	214,391	201,723
法人税等調整額	△25,653	△29,604
法人税等合計	188,737	172,119
四半期純利益	467,270	365,815
親会社株主に帰属する四半期純利益	467,270	365,815

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	467,270	365,815
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3,899	7,013
為替換算調整勘定	7,688	6,304
その他の包括利益合計	3,789	13,317
四半期包括利益	471,059	379,133
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	471,059	379,133

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

- I 前第1四半期連結累計期間（自 2022年7月1日 至 2022年9月30日）  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	ソフトウェア開 発事業	システム販売事 業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,344,400	160,367	4,504,768	—	4,504,768
セグメント間の内部売上高又は振替高	8,610	1,817	10,427	△10,427	—
計	4,353,010	162,185	4,515,196	△10,427	4,504,768
セグメント利益	623,190	23,491	646,681	5,481	652,163

- (注) 1. セグメント利益の調整額5,481千円は、主にセグメント間取引消去であります。  
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

- II 当第1四半期連結累計期間（自 2023年7月1日 至 2023年9月30日）  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	ソフトウェア開 発事業	システム販売事 業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,501,030	208,534	4,709,564	—	4,709,564
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	1,817	1,817	△1,817	—
計	4,501,030	210,351	4,711,381	△1,817	4,709,564
セグメント利益	515,447	30,611	546,059	—	546,059

- (注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。